# 海と文化でまちをひらく― 白老から考える地域のこれから

一般社団法人SHIRAOI PROJECTS

一般社団法人SHIRAOI PROJECTSは、まだできたばかりの非営利型の一般社団法人です。代表である筆者*1が白老町に移住したのは、2022年７月。地域おこし協力隊として活動をはじめ、海や森に囲まれた豊かな環境と、温かい人のつながりに惹(ひ)かれました。これまで星野リゾート トマムでの広報経験や、フリーランス広報PRとして培ったスキル・経験を活かし、この町のまちづくりに関わることができるのではないかと感じました。

活動をする中で、地域のまちづくりに伴走できる組織が必要だと感じ、2023年６月、一般社団法人SHIRAOI PROJECTS（略称：シップス）を設立しました。豊かな自然環境や食、文化、そして恵まれた交通アクセスなど、白老が持つ多様な資源を活かしながら、まちの可能性を拡げ育てていくことに挑戦しています。

### 海から始まる実証と仕組みづくり ― シン・白老港プロジェクト

白老町は古くから海とともに暮らしてきた地域です。しかし近年､港や海辺は日常生活から切り離され、子どもたちや地域住民が海とふれあう機会は少なくなりました。海の資源を活用し「海と暮らす拠点」をつくることを目的に､「シン・白老港プロジェクト」を進めています。

2024年には５日間の実証実験として「SHIRAOI Beach＆海の家」を実施し、約750名が来場。港が持つ潜在的な可能性を強く実感しました｡翌2025年には、７月21日から８月10日までの週末17日間を設定し、本格的なモデルづくりに挑戦。当初の計画より天候不良や津波警報により５日間の中止を余儀なくされ、実質12日間の開催となりましたが約1,500名が来場し、さまざまな団体などとも連携し20以上の多彩なプログラムを展開しました。

白老港を会場に実施した『SHIRAOI Beach＆海の家』

マリンアクティビティ（SUP体験など）やオープンステージイベント（オープニングイベント、マッスルコンテスト、音楽ライブなど)、アートプロジェクト、地域の飲食・雑貨出店など、幅広い世代が参加できる企画を通じて、白老港に新しい滞在と交流のかたちを生み出すことができました。一方で、天候に左右されやすい環境や、長期開催による集客の分散といった課題も明らかになりました。

このプロジェクトのゴールは、単なるイベントではなく、世代を超えて、海と暮らし、文化と経済が交わる“地域の交差点”となる港です。実証実験で得られた成果と課題をもとに、中期的には、2027年に策定予定の白老町総合計画において町の事業として明記されることが目標です。

資金面は常に課題ですが、助成金や国の支援を活用しながら、クラウドファンディングや企業協賛による支援の輪を広げています。さらに、事業の自立性を高めるために､小さなプロダクト開発にも取り組みます。この夏のプロジェクトに付随して実施したビーチクリーンやスタッフによる清掃活動で回収した海洋プラスチックごみの一部を活用したアップサイクル製品の販売を始めました。

＊１　一般社団法人SHIRAOI PROJECTS 代表理事 山岸奈津子

白老産の海洋プラスチックゴミから生まれたアップサイクル製品

これらの取り組みはまだ始まったばかりですが、販売による収益を次年度の活動資金につなげ、地域の資源を循環させる新しいモデルとして育てていきます。

### 文化でまちをひらく ― シラコレと文化芸術の可能性

白老町は、アイヌ文化のみならず長い歴史の中で育まれてきた多様な文化芸術が活発な地域です。一方で、それらは長年続く団体中心の取り組みが多く、世代を超えた交流や若返りが課題となっていました。

こうした背景のもと、2024年度から新たな実践として「シラオイ・アート・コレクティブ（通称：シラコレ）」をスタートしました。2025年２月に開催した第一回目では町内15の文化団体が協力し、絵画、書道、工芸、写真、音楽、舞踊など体験プログラムを町内各所で展開。10日間で約150名が体験に参加しました。

町内各所で開催された『シラコレ』の体験風景

活動のベースにあるのは、「マルチカルチャー」という考え方です。これは、一人の人が複数の文化に触れ、楽しむことを通じて、地域の文化の多様性を守りながら拡げていくという発想です。

シラコレを通じて、町内の文化団体や個人、移住者、アーティストが世代や分野を超えて関わり合う良い流れが生まれました。次回開催に向けて改善を進めながら、より多くの人が関われる仕組みづくりを進めています。

また筆者個人としても、白老町の文化団体調整機関である「文化団体連絡協議会」の事務局長を務めることとなり、行政と地域、文化団体をつなぐ立場となりました。現場から生まれる小さな実践として、文化を守り育て、次の世代へとつなぐきっかけにしていきます。

一方で、文化芸術の役割をより広い地域スケールで考える試みとして、2024年には「ゐぶりのアーティスト・イン・レジデンス（ゐぶりのAIR）」を実施しました。白老、苫小牧･登別･室蘭の４地域をネットワークで結び、アーティストが地域に滞在しながらリサーチや制作を行うもので、アートを通じた広域的な交流と地域の再発見を目指す取り組みです。町内の活動と連動しながら、文化芸術がまちづくりや地域連携に果たす新しい役割を探る試みとして、今後の展開を模索していきます。

### おわりに ― 協働による豊かな地域へ

人口減が進む中で、いかに豊かに暮らしていくかが問われています。地域の資源や魅力をひとつずつ見つめ直し、そこに暮らす人たちが愛着と誇りを持てる地域をつくっていきたいと考えています。残された時間は多くないかもしれませんが、行政や企業、地域団体、そして住民とともに、小さな成功体験を積み重ね、経済と文化の両輪で地域を考えながら、次の世代へとつないでいく実践を重ねていきたいと思います。

**一般社団法人SHIRAOI PROJECTS**
https://www.instagram.com/shiraoiprojects